

認知症予防学ぶ

医療、介護従事者
岐阜市で研究会

「認知症の早期発見、予防・治療研究会」の中部支部（代表世話人・原英彰岐阜薬科大副学長）は、第2回研究会を岐阜市柳ヶ瀬通



のホテルグランヴェール岐山で開催、医療、介護従事者ら約100人がさまざまな観点で認知症予防について学んだ。写真＝

原代表世話人は「高齢化が急速に進む中、認知症に対して十分な対策が取れていない。それぞれが学んだことを実行してほしい」と

おいさつした。

その後、専門家ら5人が登壇。神戸健康大学の河越眞介専務理事は、記憶力など5つの認知機能を測定できるソフトを開発した経緯やその意義などを説明し、自身の認知機能の衰えや特性を理解することが、予防や対策の一助になることを紹介した。管理栄養士の馬場美穂さんは料理教室などを通じた実践的な認知症対策を紹介した。

ほかにも認知症のバイオマーカー、サプリメントの研究についての講演もあった。（佐名妙子）

岐阜新聞朝刊2019年9月30日